

台湾訪問レポート

国際プログラムの一環として台湾の国立師範大学（NTNU）で行われたワークショップに参加するため、台湾を訪問しました。

ワークショップについて

「STEAM教育を用いて教育現場における課題を解決するアイデアを作る」という課題をベースとして九大の国際プログラム参加者とNTNUの学生が参加する5日間のワークショップが行われました。

初日と二日目はSTEAM教育についての講義や教育が実践されている小学校と高校の見学を行いました。そして、3日目は各グループでアイデアを話し合い、4日目は班ごとに発表を行いました。最終日の5日目はそれぞれ台湾の学生たちと観光などを楽しみました。

台湾でのSTEAM教育現場への訪問

今回のフィールドワークで訪問した学校は、STEAMのうちAにあたるアートに力

を入れている学校でした。2校とも公立校でありながら、3Dプリンターが装備されていたりVR作品を制作する授業が行われたりと、最先端の技術を使用できる環境を整えていることが印象的でした。また、STEAM教育の授業を行うにあたり、先生たちが授業計画を立てる際に試作として作品を制作していることも印象的でした。そして、その試作を元に必要なSTEM分野（科学・技術・工学・数学）を抽出したり生徒だけでも作品を制作できるように工程を簡略化したりと、授業の準備に膨大な時間をかけていることが感じられました。



高校に設置されていた電子黒板

台湾の学生とのグループワーク

台湾の学生とのグループワークでは基本的に英語でコミュニケーションをとりまし

た。お互い英語が第一言語でないため、考えていることが伝わりにくい部分もありましたが、スマホでの翻訳を用いたり図に描き起こして伝えたりと、工夫して伝えただけで、言語が障害となる場面はほとんどありませんでした。台湾の学生は教育を専攻にしている方も参加していたため、STEAM教育に関する知識が豊富である上、実際に教員として働いている参加者の方は自身の授業でSTEAM教育を実践しているなど、芸工では出会えない人たちと知識や特技を共有しながらワークを進めることができました。

台湾観光や食事

台湾は朝食から夕食まで外食が充実していました。朝食は、駅や大学の前などにサンドイッチなどを売るワゴンが複数あり、多くの人は出勤や通学前に購入している様子でした。食事用のサンドイッチにピーナッツバターが塗られていたり、通常のお茶に砂糖が入っていたりと、台湾には甘いものが多い印象でした。また、1週間の滞在中に3度鍋を食べるほど、鍋はメジャーな食べ物のような印象でした。野菜や練り物、豚の血を固めたものなど具材の種類がとても多く、一人前の鍋がそれぞれ運ばれてくるという形でした。生姜と胡麻油の味付けの鍋が美味しかったです。

また、観光としては、夜市や千と千尋の神隠しで有名な九份、中正紀念堂、美術館などへ行きました。現代美術館には、福岡のアジア美術館のように台湾だけでなく日本人を含む、アジア圏出身の作家の作品が多く展示されていました。

今回のワークショップは、私自身初めての海外経験であったこともあり、コミュニケーションを取れるかどうか不安な部分もありましたが、日本でのグループワークなどと大きな違いはなく、充実した時間を過ごすことができました。



「千と千尋の神隠し」で有名な九份



生姜やごま油を使った鍋